

ちば宇宙の学校第二回スクーリング実施報告

8月26日（日）、千葉市若葉区の植草学園大学にて、「遠くへ飛ばそう水ロケット」を実施いたしました。児童45名に、保護者および同伴幼児も加えて100名近くの参加となりました。運営スタッフは千葉工業高校の5名の高校生スタッフを含めて15名です。

工作の前はいつものように花嶋洋生さんから宇宙・天文関連のトピックスについてのお話しです。今回のテーマは2つ。今ちょうど旬の火星大接近の解説と、西千葉駅前に設置された「千葉は日本のロケット研究発祥の地」記念碑に因んだ最近の宇宙ロケットの動向についてお話してもらいました。

水ロケット作成の講師は今年も三好肇さん。三好さんの説明に従って親子でわいわいガヤガヤと1時間ほどでロケット作りを完了。この日はちば宇宙の学校の水ロケット史上かつてない暑い日となり、まずは熱中症への注意喚起を徹底したあと、発射を待ちきれない様子で発射場のグラウンドに急ぎます。安全第一を旨とする三好さんのてきぱきとした指示に従って第一回目の発射。いつもの大歓声がグラウンドに響きわたりました。

この日は風の読みも難しくオーバーフェンスも続出。高校生スタッフがその搜索に走り回ってくれました（残念ながら1機行方不明）。

機材の老朽化の影響もあって発射装置へのペットボトルのセットに手間取り、この日は2回の発射で終了。ちょっぴり欲求不満気味ながら親子ともども興奮の面持ちで教室に帰って来ました。

終わりの会では我も我もと10名以上の児童が感想を発表してくれました。口々に「思ったよりよく飛んでびっくりした！」と大満足の様子。ただ「前回の方がよく飛んだ。」という3年生児童の冷静なコメントもありました。

この日も高校生スタッフが献身的に動いてくれました。会場作りや炎天下でのロケット回収等、高齢化で動きの鈍くなってきた会員スタッフを支えてくれ大助かりでした。

会員スタッフの若返りをどう進めていくか、大きな課題を再認識した一日でもありました。